着物文化で支えられる京都観光の将来を担う未来派着物開発活動の事例研究

京都嵯峨芸術大　メディアデザイン　野尻千明

歴史的観光都市京都はそこに生活する人々の伝統文化の継承によって維持されていると言っても過言ではない。その一つに京都の歴史性を演出する和服文化が存在する。様々な行事や催し、イベントにおいて和服がいっそう伝統性を強調し京都らしさを醸している。しかし、近年着物を着用する人が若者を中心に減少し、京都らしさが失われることが危惧される。

これに対してより若い層にまで着物文化を広め京都らしさの維持存続を図ろうと、プレタ浴衣や京都のデザイン着物の開発といった新しい動きが始まっている。しかし京都では、派手で古典柄から外れた着物や、安いプレタ浴衣、デザイン着物の開発は異端視されているところがある。

筆者は伝統工芸である着物を守るための振興策や保存のための努力は必要だと考えるが、それに加えて現代の若者の生活にアプローチして行くような、従来とは違った方法が伝統産業への入り口に繋がると考えている。

ここでは「京都で現代的な着物を扱う」奮闘事例を分析し、どのように伝統的なものと対置しながら着物文化の普及を目指しているのか明らかにする。京都観光における重要な要素となり続けるような「着物の未来」の在り方を提言したい。

第五回エコ
全国学生シンポジ
グループ
3

事例 1
SOU・SOU

安田　亘宏先
西武文理

第五回エコツーリズム
全国学生シンポジウム